

■護良親王 後醍醐天皇の皇子。建武政権実現させるも、足利尊氏と対立、讒言で幽閉・謀殺され、伝説化した。
もりよししんのう
將軍追放交替1308 = 生。"もりなが"とも読む。 後醍醐天皇の皇子。母は北畠師親の女親子で、北畠親房とはいとこ関係。

文保御和談・1317 = 9歳：
後醍醐天皇・1318 = 10歳： 延暦寺梶井門跡の一門徒・大塔に入室。このため一般には大塔宮の名で知られる。

・ ・ ・ ・ ・ 1325 = 17歳： 梶井門跡，
北条氏外執権1326 = 18歳： 落飾し，法名を尊雲と称し，大僧都に直任される。
・ ・ ・ ・ ・ 1327 = 19歳： *父帝の討幕計画の一環として山門の勢力を掌握するため，異例の若さで三品に叙され，天台座主となり，
疎石円覚寺・1329 = 21歳： 関東調伏の祈禱を始める。
元弘の変・ ・ 1331 = 23歳： 一時天台座主を辞するが，還補。後醍醐天皇の勅により，延暦寺大講堂を修理し，新堂兇願師を務め，その功により二品に叙される。さらに護良は，座主就任後も武芸に励んだといわれ，後醍醐天皇の討幕計画のなかに山門(延暦寺)の勢力を組み入れるための重要な役割を果たしていた。
・ ・ ・ ・ ・ 1332 = 24歳： *後醍醐天皇が配所の隠岐から笠置へ脱出すると，山門の僧兵を率いて六波羅探題軍と戦うが敗北。楠木正成の赤坂城に逃れ，十津川・吉野・熊野・高野山などに潜行，野伏・悪党などを集めて再起を期して反幕府軍を組織した。
鎌倉幕府滅亡1333 = 25歳： *還俗して護良と名のり，父帝の隠岐配流中討幕運動の中心として活躍。熊野山，高野山など畿内近辺の寺社を中心に軍勢催促にのり出し，遠く九州や東北の武士にも挙兵を促すなど，全国的な討幕勢力の組織化に大きな役割を果たす。正式に征夷大將軍となる前から令旨にこの称号を用いたため，父帝は親王の令旨を無効とし，將軍職を解いた。
二条河原落書1334 = 26歳： 帝の親衛隊長格の結城親光，名和長年に捕らえられ，武者所に拘留された。「太平記」は尊氏が親王を除こうとして天皇に讒言した，と記している。鎌倉へ流され，足利直義のもとに幽閉されたが，
中先代の乱・1335 = 27歳： *北条時行の中先代の乱に際し，成良親王を奉じて敗走する直義の部下，淵辺義博によって殺された。